

The future of Joyo
～改革者として歩む～

これからの10年

京都府議会議員(城陽市選出)

酒井つねお府議会

NEWS
2021.03 Vol.17

発行: 酒井つねお 城陽市寺田袋尻21-3 堀井ビル2階 Tel:0774-57-1700

我が国は新型コロナウイルス感染症に限らず、これまで対策を先送りしてきた課題(医療・介護、労働、教育、子育て、危機管理など)や政治不信など多くの課題を同時に抱えています。このように課題が山積する今、政治に求められているのは

- 全ての対策の基盤となる政治への信頼の回復
- 現状課題への対応力強化
- 未来を見据えた問題解決への準備、道筋を示すこと だと考えています。信頼回復が第一歩です。

そして2021年から始まる我がまちの「これからの10年」には、

- 歴史を踏まえた新たな創造が必要 だと考えています。

すなわち、どちらにも前例にとられない「改革者」が求められています。

私は東日本大震災発災の年に府議会議員に初当選させていただき、今年は10年目となります。

今一度、初心である「皆さんの声を大切に、学ぶ、動く」を胸に、

様々な課題について「新しい答え」を積極的に提案し、

歴史に学び、未来を創る改革者として「これからの10年」を歩んでまいります。

京都府議会議員 酒井 常雄



「これからの10年」への「10の取り組み」

- ① 高齢社会と子育て支援を基盤とした政策づくり(少子高齢化社会の政策)
- ② 地域資源の活用、ブランド化による経済振興(地域主権・地方創生)
- ③ 民の知恵やビッグデータを活用した地域づくりのプロデュース
- ④ 「スポーツのまち城陽」の日常化(心身の健康づくり、維持)
- ⑤ インフラ等(新名神、JR、アウトレット等)、新たな事業効果の最大化
- ⑥ 社会的孤立への対策と共生社会への転換
- ⑦ 新しい時代の教育創造(機会と質の確保、オンライン学習)
- ⑧ 選択できる働き方の促進(副業から複業へ)
- ⑨ 安全・安心の社会基盤整備(災害、犯罪、医療、介護、子育て等)
- ⑩ デジタル化推進基盤の整備

活動報告

01

西脇京都府知事と 意見交換

- ▶ 令和3年度予算要望
- ▶ 新型コロナウイルス感染症対策
- ▶ 経済対策
- ▶ 府民生活の状況

などを始め、時々意見交換させていただいております。皆さんから頂いたご意見を京都府の政策につなげる。府民ニーズと京都府政策の間をつなぐ政策が未来をつくる“思いを行動に”



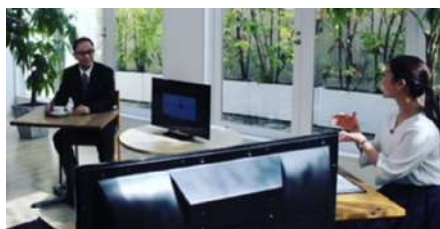
02

京都府議会広報番組 「府議会café京都」

府議会議員として「伝える」ことも大切な役割です。

- ▶ 府議会の活動
- ▶ 府民クラブ京都府議会議員団の想い、活動
- ▶ 府議会議員としての活動内容

等々、何度か出演させていただいていますが、いつも緊張します。ちゃんと伝わっているのか不安です。



03



iU大学 客員教授に就任

令和2年よりiU大学(東京都)の客員教授を務めさせていただいています。同大学は「世界とつながる、世界を変える」を目指し、情報、経営、イノベーション、ICTを活かしたビジネス等々、産業界と一緒に学生を育成する大学です。

京都精華大学(サコ学長)ともコラボさせていただきま。

3人の写真はサコ学長(中央)と中村学長(iU大学)です。





活動報告つづき

04

コロナ禍での課題対応

民主・市民フォーラム京都市議会議員団の皆さんと情報交換。新型コロナウイルス感染症への対策に関して、病床の逼迫状況、府民・市民生活への影響、ワクチン接種の計画。府と市の役割、京都市の財政状況などなどについて情報共有させていただきました。



05

令和元年度事業に対する決算特別委員会

令和2年度に開催された委員会です。すなわち、コロナ前の事業をコロナ禍で議論するので、各事業の効果に対する評価基準が変化している状況を踏まえた中で、事業の良し悪しを判定しなければなりません。さらに、今回は委員長に選任頂き、本会議で決算特別委員会総括質疑を行いました。



06

対話の「わ」



城陽市の文化パル内、プラネタリウムをお借りして「我が町のこれまでとこれから」と題して

- ▶ 城陽市の潜在力と可能性
- ▶ なぜ政治を目指したのか

などについてお話ししました。ご参加いただいた方々からご質問も頂き、「酒井の政治へ想いがとても良く伝わった」との感想と「次回も」とのリクエストを頂きました。次回を計画します。



令和3年 2月 定例会 一般質問

“コロナが浮き彫りにした 社会の脆弱性、社会課題への対応を”

3つの提言

- ① これまでの感染拡大防止対策と経済対策に加えて「孤立対策」を議論の柱に加え、3本柱をALL京都で取り組むことがポストコロナ対策に重要である。
- ② 変化する社会の価値観に合わせて、これまでのコロナ対策事業を臨機応変に見直すことが必要である。
- ③ 未経験の課題対策であるコロナへの対策事業は、評価のタイミングと評価方法を新たな視点で検討し、事業効果の最大化へ修正点を明らかにすることが重要である。



“ダブルケアを担う ひとり親家庭の実態調査と支援”

全国的にも調査・研究例の少ないひとり親家庭のダブルケアへの実態調査と支援を求め、京都府では、令和3年度に実態調査が実施されることとなった。育児・介護の両立支援と経済的支援の必要性も確認された。



酒井つねお 主な役職

- ▶ 文化・スポーツ振興対策特別委員会 委員長
- ▶ 危機管理・建設交通常任委員会 委員
- ▶ 府民クラブ府議会議員団 団長
- ▶ 国民民主党京都府連 幹事長
- ▶ 京都府都市計画審議会 委員
- ▶ 京都みらい会議(政策研究会) 代表



酒井つねお事務所

〒610-0121 京都府城陽市寺田袋尻21-3 堀井ビル2F
TEL.0774-57-1700 FAX.0774-57-1701

ポスターの掲示のお願い

府議会議員として10年となりました。これまで学ばせて頂いたことを大切に、そしてこれからは活かす。これからの10年、城陽市・京都府がPOSTコロナの時代に何を優先するのか、変えるもの・変えてはいけないものを皆さんとともに考え、実現していく。子育て、福祉、健康、食と農、暮らし、インフラなどなどの未来図を描く、示すことが大切です。その想いで、ポスターを作成しました。掲示のご協力をお願いしています。「掲示OKですよ!」のご連絡をいただければ幸いです。

